

何か楽しいことができたらいいな～

埼玉県白岡市 白岡2山行政区会 山の公園企画運営部会





埼玉県白岡市の白岡2山行政区（通称、山地区と呼ぶ）には、従来、集会所も公園もなかったところ、行政区会（自治会と同義）が2011年に中古住宅を借りて集会所とし、2014年に雑木林を、2020年に梨畑跡地をそれぞれ無償で借り受け、地域住民の手で公園をつくり、楽しい企画により住民に多くの交流が生まれている。

JR宇都宮線白岡駅から約1km。自然豊かな木々が残る住宅街を歩くと、手作りの道標が山地区へと案内してくれる。「山の広場」の前に立つ掲示板には「このところ、新しく山地区に引越してきた方が大勢いらっしゃいますので、一般的な山の地形でもないのに、『山』と呼ばれている山地区をご紹介します」と思います」として、詳しい地域紹介がされている。

取材に訪れた5月下旬の日曜日、山の広場において家族植栽のイベントが行われた。「白岡2山行政区会 山の公園企画運営部会」（部会長・林修嗣さん）が企画したもので、コロナ禍以来、久しぶりに人が集まるイベントとなった。山地区に在住する家族を対象に、1区画約1㎡の花壇を無償で貸し出し、今回は8家族から応募があった。

冒頭に林さんから「明るい広場を皆さんのチカラでもっと素敵にしてください」と呼び掛ける。同会が用意した10種類の花から選び、親子で植え付けのレイアウトを考える。子どもたちがプラカードにイラストや名前を描くと、バラエティ豊かな花壇ができあがった。

ある家族は「イベントに気軽に参加できる環境があるのいいですね。他から引越してきたけど、この地区に住むと知り合いができます」と話す。通りかかったご近所の方が、彩り豊かな花壇を見て、植え付け作業をする家族に話し掛ける姿も見られた。

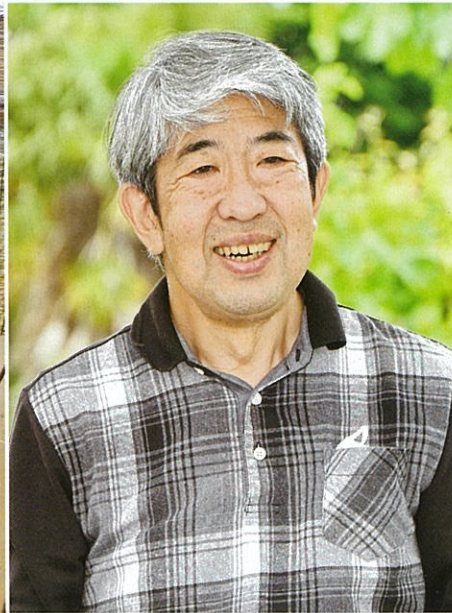
山地区は、昭和30年代は山林の中にわずかな家が点在していただけだが、住宅地として急速に開発が進み、令和4年1月時点では、およそ650世帯、約1600人が暮らしている。平野が広がる白岡市にあって山地区には最高地点（16・9m）があり、縄文時代の遺跡や旧鎌倉街道も残され、江戸時代にはすでに「山耕地」と呼ばれていた。

山地区には、住民同士の交流の拠点もなく、住民同士の関係が希薄であることを憂慮した行政区会は「地域に住む人の顔がみえるまちづくり」をコンセプトに、2011年に古い小さな空き家2棟を借りて集会所とし、2014年には、雑木林を地権者に協力を依頼して無償で借り受け、住民自身が開墾して「山の憩いの森公園」を作りあげた。毎朝のラジオ体操や地域のサークル活動、手作りの子ども夏祭りなどに活用してきた。

しかし、令和2年に地権者からの申し出により、「山の憩いの森公園」の利用範囲が半分になることから、新たに近隣の梨畑跡地（約500坪）を無償で借り受けることとし、令和3年3月に「山の公園企画運営部会」を立ち上げ、地域住民の憩いと交流の場として「山の広場」を住民の手作りで取り組むこととした。

はじめに、周辺道路との境界を補強して杭打ちやネットを張り、広場入口には車止めを置いて安全を確保した。広場には日除けのある休憩所、ベンチ、倉庫などを設置したほか、子どもの遊具を希望する声を受けて、平均台やバドミントンコートなども手作りで作っている。広場北側には農園を10区画作り、井戸も自分たちで掘った。

多額の費用がかかりそうだが、山の広場では、業者に依頼することなく、メンバーと地域住民の協力で、大工仕事や造園士



木など住民一人一人の得意分野で力を発揮し整備している。また、柵や木材などの必要な資材は、近所の住宅建設現場から廃材を譲ってもらったり、地域住民や市役所の協力により不要となったものを数多く提供してもらっている。こうした工夫により、行政区会の財政に大きく依存することなく、山の広場の整備を実現している。

中でも、手掘りの井戸は、山の広場の活動を支える欠かせない存在だ。水道代を気にすることなく、様々な活動に使うことができる。近くに井戸がある情報を聞いて井戸掘りに挑戦。近隣の方から教えてもらった上総掘りに似た方法で掘り下げたところ、深さ3.5mの水位から安定して水が出るようになった。手押しポンプを設置して水はタンクに貯めておく。手押し作業は子どもたちにも大人気だ。

こうした活動の経過は、ほぼ毎月発行する会報「山のたより」に余すところなく掲載し、行政区内の全戸に配布して、新しい住民に活動の様子を見せている。「山の広場」の名称も、この会報で募集して名付けたものだ。

この日の夕方には、午前中に参加できなかった4家族の植栽も行われた。様子を見守るメンバーの瀬戸さんが家族に声掛けする。

「ママ、アドバイスしてあげて」子どもが花苗の周りに土を埋めると「はい、できあがりました。完成です！」子どもたちは自分の名前の入った花壇をみて満足そうだ。「ばいばい、またね」と手を振りながら帰る。住宅地にできた手作りの公園に、賑わいの余韻が残る。明日はどんな楽しいことがあるのだろう。

【連絡先】

白岡2山行政区会 山の公園企画運営部会（部会長：林）
メール：shayashi3@tbz.t-com.ne.jp